

## PMによる研究開発機関の資金配分の変更について

平成 29 年 1 月 26 日  
革新的研究開発推進プログラム担当室

「革新的研究開発推進プログラム運用基本方針」（平成 26 年 2 月 14 日総合科学技術会議決定）に定めるとおり、研究開発機関の選定及び資金の配分は、一義的にプログラム・マネージャー（PM）の権限であるが、PM に関係する機関（PM との利害関係機関）又は日本国外の機関を研究開発機関として選定、あるいは、選定後の当該機関への研究開発資金の配分を変更（増額）する場合は、「革新的研究開発推進プログラム運用基本方針取扱要領」（平成 26 年 2 月 27 日総合科学技術会議革新的研究開発推進会議決定）に基づき、革新的研究開発推進会議による承認が必要（当該機関の必要性、合理性、妥当性を判断）。

下記の 2 名の PM から、PM に関係する機関の研究開発資金の配分変更に関する申請があり、ImPACT 推進会議に対して承認を求めるもの。

PM	PM に関係する機関数	PM 関係機関と PM との関わり
伊藤	4	・PM と共同研究を実施(京都工芸繊維大学、名古屋大学) ・過去 PM が取締役(アドバンスト・ソフトマテリアルズ) ・PM の所属機関(東京大学)
野地	4	・PM と共同研究を実施(アポットジャパン、千葉大学、東京大学) ・PM の所属機関(東京大学)

## 1) 伊藤 PM：超薄膜化・強靱化「しなやかなタフポリマー」の実現

プログラムの進捗において、「車体構造用樹脂強靱化」、「タイヤ薄ゲージ化」、「透明樹脂強靱化」の各プロジェクトにおいて、環動ポリマーの利用により耐衝撃強度等の材料性能が向上するなど、顕著な成果が確認されているところ。これまでの取組を継続・発展させ、コンセプトカーの実現に向け環動ポリマーの量産化プロセスなどの技術開発や材料性能向上のメカニズム解明に取り組むため、次年度以降の予算を追加する必要があり、当該研究開発機関（京都工芸繊維大学、名古屋大学、アドバンスト・ソフトマテリアルズ(株)、東京大学）の研究資金を増額する。

## (研究開発資金の配分変更)

研究開発機関	研究開発責任者	推進会議で本機関を承認した日	当初予定研究資金(百万円)	変更後研究資金(百万円)
京都工芸繊維大学 材料化学系	浦山 健治	平成27年2月5日	29	48.8 (+19.8)
名古屋大学 大学院 工学研究科	竹岡 敬和	平成27年2月5日	26	47 (+21)
アドバンスト・ソフトマテリアルズ(株)	林 佑樹	平成27年2月5日	40	62.3 (+22.3)
東京大学 大学院新 領域創成科学研究科	伊藤 耕三	平成26年10月2日	230	240 (+10)

2) 野地 PM：豊かで安全な社会と新しいバイオものづくりを実現する人工細胞リアクタ

「はかる」人工細胞デバイスプロジェクトにおいて、ウイルス等を超高感度に検出するデジタル ELISA 技術の実用化に向け、感染症以外の疾病への有用性の実証（既知のバイオマーカーへの適用や未知のバイオマーカー探索）に取り組むため、アボットジャパン(株)への研究資金を増額する。また、「つくる」人工細胞デバイスプロジェクトの各課題に対して実施した中間ステージゲートを踏まえ、継続して取り組むこととなったスーパー酵素や創薬探索用タンパク質の開発及びそれらを効率化する蛍光プローブの開発について、当該研究開発機関（千葉大学、東京大学）に対し PM が留保していた研究費から研究資金を追加で配分する。

研究開発機関	研究開発責任者	推進会議で本機関を承認した日	当初予定研究資金(百万円)	変更後研究資金(百万円)
アボットジャパン(株)	吉村 徹	平成28年3月3日	120	183 (+60)
千葉大学 大学院理学研究科	村田 武士	平成28年3月3日	24	42 (+18)
東京大学 大学院薬学系研究科	浦野 泰照	平成28年3月3日	24	26 (+2)
東京大学 大学院工学系研究科	野地 博行	平成28年3月3日	81	92 (+11)

以 上